

二〇一九年度 江戸川看護専門学校 入学試験問題

国語 (第二回試験)

注意

1. 指示があるまで開かないこと。
2. 試験時間は五十分とする。
3. 受験番号、氏名を解答用紙に正確に記入すること。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. その他の注意事項は、試験官の指示に従うこと。

一

次の①～⑩の各文中の傍線部のカタカナを漢字にせよ。

- ① 彼はヘイセイを装った。
- ② 答えられる者はカイクムだった。
- ③ 「カホウは寝て待て」ということわざがある。
- ④ 物語はカキヨウに入った。
- ⑤ 水質オタクが問題となる。
- ⑥ フキユウの名作を読む。
- ⑦ 国家がスイタイしていく。
- ⑧ およそ信じられない迷信がルフしている。
- ⑨ 彼が負けるのはヒッシだった。
- ⑩ カンヨウな態度をとる。

二

次の①～⑤の言葉の意味を選択肢から選び、記号で答えよ。

- ① オブザーバー
- ② シニカル
- ③ アンニユイ
- ④ コモンセンス
- ⑤ シンクタンク

- ア 倦怠
- イ 調査研究機関
- ウ 皮肉な態度
- エ 常識
- オ 監視員
- カ 指標

三

次の（ ）の中に適切な漢字を入れて四字熟語を完成させよ。

- ① 優（ ） 不断な態度。
- ② 理路（ ） 然としている。
- ③ 前（ ） 未（ ） の大事件だ。
- ④ 単（ ） 直入な質問だ。
- ⑤ （ ） 骨碎身して会社に尽くす。

四

次の語句の意味として最も適切なものをそれぞれの選択肢から
選び、記号で答えよ。

- ① 人口に膾炙している
- ア 世間に広く知れわたっていること
- イ 人口の増減に深く影響すること
- ウ 世間に鋭く攻撃すること
- エ 世間に全く行き渡らないこと

② 誤謬

- ア 謝罪すること
- イ 怠惰な態度
- ウ 下手で劣ること
- エ 間違い

③ 敷衍

- ア 世間に定着すること
- イ 基礎となる部分
- ウ 物事を中心となること
- エ わかりやすく説明すること

④ 稀有

- ア 他と変わらないこと
- イ 希望となること
- ウ 珍しいこと
- エ 興味をひくこと

⑤ 婉曲

- ア 弧を描くこと
- イ 遠回しなさま
- ウ 優れた才能
- エ たとえて表現すること

五

次の語句の対義語を後の語群から選び、カタカナを漢字にして答
えよ。

- ① 保留 …… ()
- ② 儉約 …… ()
- ③ 遺失 …… ()
- ④ 理想 …… ()
- ⑤ 幼稚 …… ()

【語群】

ロウレン・ロウヒ・ケッテイ・シュウトク・ゲンジツ

六

次の文学史について各設問に答えよ。

- ① 次の選択肢の中から宮沢賢治の作品を一つ選び、記号で答えよ。
ア『黒い雨』 イ『カインの末裔』 ウ『銀河鉄道の夜』
エ『赤いろうそくと人魚』 オ『沈黙』
- ② 次の選択肢の中から川端康成の作品を一つ選び、記号で答えよ。
ア『人間失格』 イ『海と毒薬』 ウ『細雪』
エ『雪国』 オ『痴人の愛』
- ③ 次の選択肢の中から芥川龍之介の作品を一つ選び、記号で答えよ。
ア『河童』 イ『蟹工船』 ウ『山椒魚』
エ『赤蛙』 オ『吾輩は猫である』

次の文章を読んで後の問一～問九の設問に答えよ。

句読点も一字として数えるものとする。また、漢字の送り仮名など、原文のまま記載している。

かつて、一人の農村の青年がぼくにこんなことを言った。——俺はこの頃になって、自分の仕事が百姓だとうやく人に言えるようになった。今までは恥かしくてそれが出来なかつたんだけどね、と。

彼の発言の裏にはこういう事情がある。彼は、高校を卒業すると若い人々の多くが都市へ向けて流れ出て行く風潮に抗し、あえて農村に踏みとどまり、^a養蚕と酪農を中心にした新しい農業をはじめようと試みるグループの一員だった。彼の強力な主張により、父親の^b躊躇や^c危惧をのり切つて、田がつぶされ桑が植えられた。

I、彼は主導権を握つて養蚕を中心に据える農業へと一步を踏み出したところであつたのだ。その気負いと自信とが、彼の中から「百姓」という職業にまつわりついていた劣等感に似た感情を拭い去つたのであつたらう。^①俺は百姓だ、と彼は胸を張つて公言出来る気分になれたわけである。その時彼に目覚めた意識を、**X**と呼んでいいはずである。

職業に貴賤はない、とはいつても、それは依然として建前の域にとどまっている。口には出さないまでも、心の中のどこかでは職業に上下をつけ、優劣の差を考えているのがわれわれの本音であるだろう。^②それがあるために、一人の農村青年は自分が「百姓」であることを恥じていた。もしその状態を不幸であつたとするならば、職業を訊ねられて「会社員」「サラリーマン」としか答えられない人々は、彼より幸福であつ

たといえるのだろうか。彼には自らの劣等感をテコに不幸を逆転してそこに新しい職業意識を生み出す可能性があつたのだが、「会社員」「サラリーマン」に^③その可能性はあるのだろうか。「会社員」「サラリーマン」が、自分の職業は「百姓」より幸せだ、ともし考えるのだとしたら、^d確固とした仕事の形を持ち得ぬ事態に気がついていない分だけ、^④本当は彼等の方が農村の青年より一層不幸なのだ、といわねばなるまい。彼等には、劣等感さえ持つことが出来ないからである。

「私は教師です」「私は警察官です」「私は店員です」「私は運転手です」「私は守衛です」*「私は看護婦です」と答える時、たとえ優劣さまざまの気分をひきずらざるを得ないことがあつたとしても、その答えの内には否応なしに職業の意識が含まれて来てしまう。社会に向けた一つの顔を持つてしまう以上、彼等は自分に対して少なくとも最低の能力と責任を要求するだろう。私は給料をもらうために働いているだけなのだから、仕事の方はどうでもかまわないのだ、といつてはすまされない。その地点に、外に対して感じる責任と、内に対して覚える仕事の手応えとの結びついた意識、つまり^⑤職業意識が生れる。そしてこの職業意識から最も遠く離れて存在しているのが、「会社員」意識、「サラリーマン」意識なのである。

それが実情ではあつたとしても、会社で働いている人間が自分の「職業」はなんであるかと考えた時、「サラリーマン」と自答してはならない。もしそう答えるなら、彼は自らの置かれている状況をすべてそのまま認め、一切の異議申し立てをせず、ただ命じられたことを唯々諾々と受け入れて働く存在に過ぎなくなるだろう。一見、その方が安易な暮しに思われるかもしれないが、実はそうではない。実際に会社で働いてみれば

すぐわかることだが、人間に意志があり、感情があり、感覚があり、意識がある以上、決してそのように生きることは出来はしないのである。

としたら、**Ⅱ** 困難であろうとも、「会社員」は会社の中でなんとかして自分の職業を探すべく努めねばならない。職業は名刺の肩書の上のっているのではない。部屋のドアに書かれているのでもない。日々の具体的な仕事の中にしかありようはないのである。二年、三年という短期間で担当業務が変わってしまうとしても、それを通り過ぎねばならぬ通路や階段のように考えるのではなく、その時現在の仕事のうちに職業を求めるべきだろう。求めれば与えられるという保証はどこにもない。**Ⅲ** 求めて得られないのと、求めずに得られないのとではなにかが違う。求めても得られなかった失望や諦めの底には、彼の **希求** たものの影がネガフィルムの像のように眠っているはずである。そのネガがある限り、彼は人間であることまでも諦めてしまったという事態に陥る危険は免れるのだといえよう。(黒井千次『働くということ』による)

(*) 「看護婦」：著者の表記のままによる。

問一 波線部 a～e の漢字の読みを平仮名で答えよ。

問二 文中の **I**、**Ⅲ** に入る語を、それぞれあとの選択肢から選び、記号で答えよ。

- ア しかし イ そして ウ つまり エ だから
オ もし カ たとえ

問三 傍線部①とあるが、「彼」がこのような気分になれたのはなぜか。それを説明した次の文の空欄に入る語をそれぞれ文中から二字～五字で探し、抜き出して答えよ。

自分の仕事(農業)に対して **1** を握ることで **2** と **3** が生じ、 **4** を **5** から。

問四 文中の **X** に入る語を、文中から四字で探し、抜き出して答えよ。

問五 傍線部②「それ」が指す内容を文中から二〇字以内で探し、解答欄の「〜こと。」につながる形で抜き出して答えよ。

問六 傍線部③「その可能性」とはどのような可能性か。具体的に表現している部分を文中から三十五字で探し、最初と最後の三字を答えよ。

問七 傍線部④とあるが、なぜ「会社員」と「サラリーマン」が農村の青年より不幸なのか。それを説明した次の文の空欄に入る語をそれぞれ文中から二字～四字で探し、抜き出して答えよ。

確固とした仕事の形を持つことができないということは、
1 がないということにつながり、そのために **2** を逆転させる **3** さえ持つことができないから。

問八 傍線部⑤「職業意識が生れる」とあるが、筆者は何と何が結びつくところのようになるというのか。文中からそれぞれ十五字以内で探し、抜き出して答えよ。

問九 「職業意識」に対するあなた自身の考えを述べよ。

